

鳥飼下地区のゾーニング見直しについて

- 鳥飼下地区の植物分布を調査した結果、鳥飼仁和寺大橋付近において、良好なチガヤ群落を確認された。
- 淀川環境委員会の学識経験者の意見を踏まえ、淀川らしい自然環境を保全する観点から、鳥飼下地区公園整備計画案のゾーニング計画の見直しを行った。
- チガヤ群落を保全し、かつて土砂置き場として利用され裸地化しているエリアを多目的広場のエリアとすることで、鳥飼下地区の自然環境の保全と利用の調和、自然環境の連続性の確保を図る。

■ チガヤとは

- ・イネ科の多年生植物（在来種）。地下茎（ランナー）をのばして群落を形成。自然分布地は海岸の砂浜などで草丈は1mに達する。定期的な刈り取り管理を受けている水田の畔や河川堤防など、人の生活と結びついた場所にも広く分布。

【高い生物多様性】

チガヤ草原の中には多くの野生草花が混生できる。畦畔に広がる草原の場合、在来種を主体に40種類にもおよぶ野生草花が共存。在来種を主体とした草原が連続してつながれば、草原生の生物のネットワークとして効果があがる。

【風土になじんだ草原景観】

チガヤ草原には様々な在来の野草が混生するため、これらの花が咲き替わり、四季の変化に富んでいる。また、チガヤは飼料や蓑、屋根葺などの材料として利用され、風土記、万葉集、枕草子、源氏物語、平家物語、徒然草など多くの古典に載る、古くから日本人が慣れ親しんできた植物。

【身近な利用】

保全が優先される自然植生とは異なり、刈り取りで維持されるチガヤ草原は人の影響に対する耐性がある。虫採りや草摘みなど五感での体験が可能。自然観察や環境学習の場に適している。

出典：チガヤ草原創出の手引き、平成12年3月、チガヤ草原創出研究会

■ 鳥飼下地区の植生（平成 22 年度秋期調査）



■ 鳥飼下地区の現況（平成 23 年）



写真1： 鳥飼仁和寺大橋から見たチガヤ群落



写真2： 多目的広場エリアの予定地



写真3： 展望広場を設置予定のワンド